



心の声聞いた安心・安全な麻酔の提供

麻酔科部長
いwasaka ひで お
岩坂 日出男

大分大学病院で28年間、その後大分市医師会立アルメイダ病院で12年間勤務し、昨年から大分循環器病院で勤務させていただいている麻酔科部長の岩坂です。「心音」を聞くことから始まる循環器診療のように、麻酔科医は麻酔で眠っている患者さんの「心音」を常に聞いています。「心音」を聞いている麻酔科医の仕事について、この「心音」に記載させていただきます。

随分前になりますが「へえ〜っ」というリアクションで一躍話題になった「トリビアの泉」というテレビ番組をご存じでしょうか？視聴者から様々な物珍しい問題を募集し紹介するという構成で、その問題の珍しさに対し出演者が「へえ〜」の数をつけることにより得点化するという番組でした。一度、全身麻酔に関することが問題として取り上げられていました。“全身麻酔のメカニズムは医学の進歩した今でも分かっていません。これは医学の常識です。でも安心してください。麻酔は効きますから。”と知り合いの教授が名演技をしていました。特定部位の神経の伝達をブロックする局所麻酔薬のメカニズムは分かっているのですが、大脳という司令塔部分に全身麻酔薬がどのように作用するのは未だ解明されていないのです。これは「脳」自体がまだ、よく分かっていないことにも関係します。

麻酔中の患者さんは眠っている「意識消失」とされています。「意識」には100もの段階があると何かの本で読んだ記憶があります。起きている時を100、深昏睡を0とするとその間に100の意識レベルが存在するというのです。麻酔中の患者さんの意識レベルは果たしてどのレベルなのでしょう？あまりに深い麻酔(昏睡)は術後合併症の増加にも関係すると言われます。また逆に浅い麻酔ではごく稀に手術を受けていることを覚えている患者さんもいます。たとえ手術のことを覚えていなくても、意識はあったが、そのことを単に記憶として止めることができない場合があることも分かってきました。聴覚は人間の五感の中で最後まで保たれる感覚らしいので、われわれ手術室スタッフが話している言葉が聞こえているのかも知れません。現在は脳波モニターを用いて意識レベルの程度を測定しながら麻酔薬の調節が行われています。

全身麻酔中の患者さんは手術中、痛みを感じることなく、眠っている間に手術を受ける事ができます。しかし、意識がなくなっているため、危険が迫っても自身で、危険を感じる事も、体を動かして危険から逃れる事もできない無防備な状態となっています。

「病気だから手術を受ける事の覚悟はできているのですが、全身麻酔が怖いのです。」と話される患者さんもいらっしゃいます。その通り、局所麻酔よりも全身麻酔は意識がなくなり、無防備となるため危険を伴う事になります。でも、安心してください。麻酔科医である私が、常に側にいて、意識がなくなっている患者さんの「心の声」を聞いて、常に危険から守っています。今では全身麻酔は車を運転するよりも、遙かに安全に実施できています。手術室の守護神である麻酔科医が患者さんの安全を確保しますので、「心配御無用!」。安心して大分循環器病院で手術を受けて下さい。



“心臓麻酔中の筆者”

— 新入社員オリエンテーションを行いました —

令和6年度新採用者オリエンテーションを6月7日に開催しました。昨年度の中途入職の職員も加え、全20名(事務部3名、医療連携室1名、臨床検査部2名、臨床工学部1名、看護部13名)が参加し、先輩による各部署紹介・医療安全や感染対策などの研修が行われました。

入職し2ヶ月以上経過していますが、まだ不慣れな事もありご迷惑をおかけすることもあるかもしれません。新入職員のみならず先輩職員も彼らをサポートしつつ職員一同、精一杯頑張っ参りますのでどうぞ宜しくお願い致します。





部署紹介

【看護部 3病棟】



3病棟は、循環器内科・心臓血管外科の急性期医療を担う50床を有する病棟です。入院患者さんの平均在院日数7日、循環器カテーテル検査・治療数は月平均150件、心臓血管外科手術対応など急性期医療を提供しています。スタッフの平均年齢は29歳と、明るくパワフルな病棟として患者さんを支えています。

急性期看護の対応が多い中でも、疾患指導・生活指導は患者様の社会復帰には欠かせない看護の一つです。3病棟では、“日本循環器学会心不全療養指導士資格”を取得し

た看護師、取得を目指す看護師も増え、ともに学習する中で専門性を高め、目標に向かってステップアップできる体制を整えています。令和4年度からは、“心不全ハートノート指導”を積極的に取り入れ、また、医師・薬剤師・栄養士・理学療法士・看護師で定期的な多職種カンファレンスを持ち、患者さんへの生活指導や、ご家族様も含めた早期からの支援介入に、病棟スタッフ全員で取り組んでいます。

急性期患者さんの多くは後期高齢者の方ですので、患者さんが可能な限り早期に住み慣れた自宅や施設へ復帰できることを目指し、スタッフ一丸となって努力して参ります。

【看護部 4病棟】



4病棟は、“急性期一般病床”と“地域包括ケア病床”を有す49床の病棟で、整形外科・消化器内科・腎臓内科・心臓血管外科の患者さん、そして、超高齢化に伴い急増した心不全患者さんなど、さまざまな疾病や背景を抱えた方が入院されています。

ここでは看護師だけでなく、医師・理学療法士・医療相談員・栄養士・薬剤師などの専門職が協力して機能訓練、療養相談、栄養支援、服薬調整等を行い、住み慣れた場所への在宅復帰をサポートしています。また、院外の在宅支援に

携わる医療・介護とも連携を図りながら、退院に向けた環境整備も担います。

また、“地域包括ケア病床”とは、直ぐに自宅や施設へ退院するには不安のある患者さんや、自宅・療養中の施設から緊急入院した患者さんに対して、住み慣れた地域での在宅復帰に向けて診療・看護・リハビリ等を行うことを目的とした病床です。

一般に、病院での治療が終了すると退院になりますが、疾病を抱えた高齢者は入院を契機に日常動作が低下しやすくなるため、この病床にて環境や生活等を適切化し、再入院を防ぎます。

高齢化社会が進み、疾病だけではない多種多様な不安を解消するため、私たち看護師は「人を見る」という看護師独自の視点から、身体・精神・社会・文化など情報を総合的にアセスメントし、必要な看護を提供できるよう自己研鑽にも励んでいます。

2024年度も多職種チーム一丸となって、患者さんやご家族に寄り添い向き合いながら、治療・退院後の不安を解決し、“その人らしく生活できる身体と環境を整え退院して頂く”支援をいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

着任ドクター紹介

- ① 座右の銘 ② 趣味 ③ 今、一番したいこと
④ 医師になった理由 ⑤ もし、医師になっていなかったら
⑥ 患者さんへ向けて一言



消化器内科 **筑波 貴与根**
ちくば きよね

- ① 待てば海路の日和あり
② 史跡巡り、ゴルフ
③ 早く職場に慣れること
④ 父親の影響
⑤ 公務員
⑥ 丁寧な診察と分かりやすい説明を心がけます



循環器内科 **植村 徹也**
うえむら てつや

- ① 初心忘るべからず
② バドミントン、ダイビング
③ 家族旅行(猫を含む)
④ 小さい頃、弟が体が弱く病院にお世話になっていた
⑤ 営業職をしてみたいです
⑥ 各々の患者さんの悩みに合わせた診療を心がけます。慣れるまで、時間がかかるかもしれませんが宜しくお願ひします。



循環器内科 **岩淵 優毅**
いわぶち ゆうき

- ① 昨日から学び、今日を生き、明日へ期待しよう
② 音楽、登山、スキー
③ 旅行
④ 医学に興味があったから
⑤ エンジニア
⑥ 最善を尽くして治療を行います。これから宜しくお願ひします。



栄養のおはなし



管理栄養士 **森迫 浩美**
もりさこ ひろみ

野菜を食べよう！

「野菜は身体によい」と、積極的に野菜を取り入れている方は多いと思います。確かに、野菜にはビタミン、ミネラル(カリウム・カルシウム・鉄分など)、食物繊維をはじめ、様々な栄養素が含まれていますが、野菜だけを食べていても、健康を維持することはできません。

野菜に含まれるビタミンやミネラルには、肉や魚に含まれるたんぱく質、米や麺に含まれる炭水化物などが体内でうまく働くための手助けをしてくれます。私たちは、様々な食品を組み合わせることで、必要な栄養素をまんべんなく摂ることができるのです。

更に、野菜には旬があります。旬の野菜は美味しいだけでなく、栄養素量も多くなります。季節を意識して食べることも大切です。

最後に、せっかくの野菜も、調味料をたくさん使ったり、塩辛い漬物として多く食べたりすれば塩分の摂りすぎにつながります。素材の味を生かした、薄味の工夫もしてみてください。



2018年発行「心音」第15号掲載の「栄養のおはなし」の中で、オクラに含まれる成分の一つとしてムチンを紹介しましたが、ムチンは「動物より分泌される粘着物一般を示すもの」であり、植物には存在しないことがわかりました。訂正してお詫び申し上げます。

医療法人 輝心会

大分循環器病院
Oita Cardiovascular Hospital

〒870-0837 大分市太平町4組 TEL 097-544-8800(代表) ホームページ: <http://www.oita-junkanki.jp/>

